

## 牛ウイルス性下痢・粘膜病を予防しましょう！

今年度、昨年度に引き続いて管内で牛ウイルス性下痢・粘膜病の持続感染牛(PI牛)が2頭摘発されました。

### ◇ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)とは

- ・牛ウイルス性下痢・粘膜病(BVD-MD)は、牛ウイルス性下痢・粘膜病ウイルス(BVDウイルス)の感染により引き起こされる疾病(届出伝染病)です。
- ・BVDウイルスに感染すると、発育不良、下痢、呼吸器症状を呈するほか、妊娠牛が感染すると奇形、流産、不受胎等の繁殖障害を引き起こす場合があります。
- ・母体内でウイルスに感染した胎子は、産まれても先天異常、発育不良のほか、一部の牛ではPI牛※(持続感染牛)になります。
- ・PI牛が、粘膜部にび爛、潰瘍等の粘膜病を発症した場合、死亡することがあります。

※PI牛とは、胎齢18～125日齢の妊娠牛にBVDVが感染した場合の分娩子牛で、一生涯にわたり唾液、鼻汁、糞便、尿、乳汁、精液などからBVDウイルスを排出し続け農場における感染源となる個体です。

家畜の病気や死亡牛のBSE検査、羊や山羊のTSE検査  
に関するお問い合わせは山梨県西部家畜保健衛生所まで  
電話・・・0551-22-0771 FAX・・・0551-22-6728  
夜間の連絡は・・・090-5564-1018  
土日・休日の連絡は・・・090-5564-1018 または 090-5568-0817

## どのような対策がありますか？

○ワクチン接種：治療方法はありませんがワクチン接種による予防は可能です。BVD-MD2価（1型と2型）ワクチンを定期的に接種しましょう。

○PI牛の淘汰：感染源となるPI牛を早期に発見し、淘汰することにより、農場内の清浄性を維持してください。

○侵入防止：導入牛を入れる際は、BVD-MD検査済みの牛が望まれます。

### ＜PI牛が摘発された農場における対応＞

同居牛全頭について、抗原検査を実施しましょう。

また、PI牛の自主とう汰以降10か月間に農場で生まれた新生子牛についても、出生後速やかに検査を実施するようにしましょう。

（ただし、PI牛が存在していた期間及びその期間における新生子牛の胎齢を踏まえ検査期間を短縮することができます。）

